



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



# 高らかに「福音宣言」

## 晴佐久神父招きカトリック北薩大会

五月三十日(日)恒例のカトリック北薩大会が薩摩川内市の鹿兒島純心女子大学であった。今年の大会テーマは「混迷する現代に輝くー福音宣言ー」。講師には東京教区から晴佐久昌英神父(多摩教区)が招かれ、「聖霊の働きを感じて欲しい」と魅力たっぷりに話し、聴衆に小さな聖霊降臨を味わわせてくれた。また講演前にささげられたミサでは終身助祭候補者認定式があり、二人の候補者が認定を受け十二月の終身助祭叙階式を目指すこととなった。



レズンブートル会が管轄する北薩地区のカトリック信者たちが共に研鑽し励まし合う「カトリック北薩大会」が毎年開かれるようになって三十年あまり。今年もその交流の場に、三百人近い信者が駆けつけ、共に祈り、共に語り合い、共に研鑽した。

と石神秀人さん(阿久根教会)の二人の終身助祭候補者認定式があった。福音朗読後、大松正弘神父(出水教会)の呼び出しに元氣よく答え司教の前に進み出た二人は、司教から候補者としての訓告を受けると「全力で叙階の準備に当たる」と誓い、候補者として認定された。ミサ後、参列者たちは昼食のひとときを楽しみ、第二部の晴佐久神父の講演を待った。江角記念ホールであった晴佐久神父の講演には、北薩地区以外

### 新風

鹿兒島教区には二十八戸の司祭在住教会と四十二戸の巡回教会があります。これらの教会群は百十八年前から献堂され始められました。二十八戸の教会は鹿兒島県内の各市に満遍なく配置されています。「その町に移住したカトリック信者が多いからそこに建てましょう」と言うよりも、地図の上ですべての県民に満遍なく福音が行き渡るようにとの理念で建てられたようです。九州全域を見ても、日豊本線、鹿兒島本線、長崎本線上の各市に教会が配置されていることによっても分かります。

鹿兒島教区は離島が多いですが、それでも主な各島に教会が配置されています。このように各地に教会が

### 福音宣教と教会所在地

存在しているということは各地に身体を治療する病院があるように、各地に魂の救いの場所があるということになります。人の移動の激しい今日、どこに住んでも近くに教会がある、というのは信者さんにとっても心強いことだと思います。

郡山司教は「今後もこの教会の配置を死守する」という強い意向をもっています。「教会の数を死守する」ということは「そこに在住する司祭の数も死守する」ということになり、司祭の数を死守することにより、それに応じた神学生の数も補充

### きぼうの電話養成講座

鹿兒島きぼうの電話(山口弘子運営委員長)では、今年で二十三回目となる「カウンスリング講座」を六月十八日(金)から教区本部を会場に始めた。

この講座は同電話の相談員を養成するために開かれているが、生活のために役に立たいという人も二十歳

さることながら、道行く人との触れ合いのための無料カフェの多摩教区への設置など、宣教のための取り組みに多くの信者が心を打たれていた。

### 司祭年終わる

#### ザビエルで閉幕ミサ

六月十三日(日)午後、ザビエル教会で「司祭年」閉幕ミサがささげられた。このミサは昨年の「世界司祭の聖化のための祈願日」(六月十九日)に教皇ベネディクト十六世によって開始が宣言されたもので、世

以上の人なら誰でも受講できる。今年も十一月の下旬まで、大坪治彦鹿兒島大学教育学部教授などからカウンスリングの知識や青少年の心理など二十回の講座で学習することになっている。また七月二十六日と八月二日のアルコール依存症についての講座は受講者以外も無料で受講できることになっている。



界中で司祭が幸せに、敬虔に、喜びをもって日々の使徒的働きができるよう皆で祈るよう勧められてきたもの。

この日の閉幕のミサには、教区内から九人の司祭が集まり、司教とともにミサをささげた。説教の中で司教は、司祭一人ひとりに霊的花束を贈呈してくれた指宿教会などを例に挙げ、信徒が司祭のために祈り続けてくれたことに感謝し、またその上でこれからも司祭のために祈り続けて欲しいと願った。

### ザビエル歴史巡礼

#### 教区巡礼委員会

教区巡礼委員会は八月一日(日)に上陸記念祭の一環として「ザビエル歴史巡礼」を予定している。この日の巡礼地は、鹿兒島、日置、南九州の各市にあるザビエル縁の地で、参加費はバス代、昼食代、旅行障害保険代込みで三千元。詳しくは徳永善博巡礼委員まで(〒991-0901 三六六九-〇四二三)まで。

### YET

最近抱いている疑問は「父なる神よ、あなたと父と呼ばれ寂しくありませんか？」だ。国民性や育った環境で「父の存在」は様々だろうが、多くの条件に鑑みても子供は父より母に思い入れがあるように思えるのだ。▼仕事からもどるとチビが飛びかかってくる。そして「お仕事、楽しかった？」「転ばなかった？」「ボールはゴールに入った？」と矢継ぎ早の質問。どうやら父親の職業を間違えている節がある。そんなチビ、実はお目当てはバッグの中味。一度、土産を持ち帰ったものだから、以来帰宅するオモチャには「父親」が付いている?と思っているのだ。▼出勤時にも寂しい思いをすることがある。「パパと一緒に行く」と泣き続ける際は切なくて「今日は有給休暇を：」なんて企みが浮かぶほどその後追いする姿は愛おしい。なのに、妻からの「寛ちゃん、ソーセイジ食べる?」の一言がチビの嗚咽を「行ってらっしゃい。」へと変え、感動的なドラマは幕を下ろしてしまふ。偉大な父の父親はたかが腸詰程度に負ける羽目になる。▼こんなことはまだまだある。彼にとって我儘したければ「パパ」、食べた後、寝たりの生き死にかかわること必要なのは「ママ」なのだ。子供はしたたか極まりない存在だ。そう言えれば戦争に行つた父が言っていた。兵士は戦場で死んで行く時、口を揃えて「お母さん」と叫んだと。だから時々、問うてみたくなるのだ。「神様、ちよつとは父親で損したなと思つていてるでしよう?」って...

今回は『司祭不在の集会所式』の形式で七月四日(日)の一年間第十四主日の典を深めて行きたいと思えます。聖書箇所はイザヤ六十六章10c、ガラテアの信徒への手紙第六章14、18、ルカ十章12、17、20)を使用致します。ミサの形式と殆ど同じなので式次第は割愛致します。聖書の朗読後、今日の聖書箇所が私たちに何を語りかけているかを深めてみたいと思えます。

### Ⅰルカ福音記者について

まず、ルカについて簡単にご紹介しましょう。ご存じの通り、ルカはイエスの直弟子ではありません。直弟子の弟子の弟子ぐらいだということですが、使徒言行録の著者でもありと言われています。紀元七〇年から一〇〇年ごろ、異邦人を対象に書かれた本です。イエスが十字架にかけられて約五十年経つことになりました。初代教会において、パウロたちと共に宣教に従事した医者ルカがイエスの生涯について資料を集め、物語としてまとめたものと伝えられています。言い伝えによると、彼はギリシア人の異教の人々にオリブの木で絞首刑にされ殉教したと言われています。

### Ⅱルカ福音記者にとつての『イエス像』

「イエスは天に上げられる時期が近づいたので、エルサレムに行こうと決心して、自分に先立って使いの者をつかわした」

とあります。まさにルカは「旅空に歩むイエス」を表現しています。ルカ福音書はこのイエスの旅を描いています。南山大学神学科学科の元教授だった三好氏によると「人生は旅である。そして行く道である。イエスもこの世の人の子として一人、旅の道を行く。しかし、人それぞれによって行く道は、そしてたどり着く先は異なる。イエスはどんな道を行くのか。旅空に歩み、旅空に行つてしまつたのである。これがルカ福音書のイエス像であり、この福音書の課題である」と。つまり、ルカにとつて宣教と派遣は大きなテーマなのです。宣教奉仕者、集会所

## 北薩地区宣教奉仕者(信徒使徒職)養成講座 『年間第十四主日』から

阿久根教会信徒 石 神 秀 人

式者をされる方にとつてはとでも大切なことをルカ福音書は教えてくれると思います。

### Ⅲ福音宣教に向かう困難さ

これらのことを考えながら、今日の福音を読んでみましょう。分ち合うという意味もあつて気になる文章を一部取り上げ、イエスの教えとそれをどう受け止めるかを探っていきます。十章1節から宣教について書いてあります。この中で

①「刈り入れは多いが働く人は少ない。だから、刈り入れのために働く人を送ってくださるように、刈り入れの主を祈り求めなさい。」とあります。まさに

「召命のために祈りが必要だ」ということをイエス自身が教えているのです。それとともにそこで起こるであろう危険性、抵抗、攻撃があることを前もって教えています。神様はあなたからメッセージを待ち続けています。私たちの宣教の基礎部分にはあなたがイエスから派遣されている事実、さらに聖霊に導かれながら神の国の福音を語るのだということをはたして意識しているでしょうか?

福音を伝えて報酬を求めるのではなく、福音を伝えることにより報酬が自然に生まれてくること、福音によって相手が満足されることが必要であると考えるのが必要です。誰かに伝えるのを急いでいませんか? 宣教の方法を見直してみよう。⑤しかし、町に入っても、迎え入れられなければ、広場に出てこう言いなさい。「足についたこの町の埃さえも払い落して、あなた方に返す。しかし神の国は近づいたと知れ」と。時には抵抗されることもあり、そのときは抗議の代わりに神の国は近づいたと言いなさいと言われます。福音宣教の困難さも伝えてい

②「平和の子がそこにいるならあなた方の願う平和はあなたにとどまる。もしいなければ、その平和はあなたの方に戻ってくる。」相手からの断り、攻撃があつたとしても、そこでグチを言うのではなく、相手のために平和を祈ることが、結局自分のためにもなっていることを感じていますか? 神様と相手(人間)と自分の関係をもう一回確認してみよう。

③「平和の子がそこにいます。またその伝達も自分にはできない」と逃げたいと思いませんか? また自分の伝え方が悪いと自分を一方的に責めてはいませんか? 身近な人にイエスのことを伝えるときを思い浮かべてみましょう。

④「家から家へと渡り歩く」という箇所ですが、宣教はしっかりと現場で時間をかけないと実にならないことを教え、またそこで

イエスは宣教のスタイルを決めたのではありません。だれが神の福音を必要としているのか、自分がよく知っているはずで、身近な所にその人はいます。伝えなければならぬ相手はあなたが自然と見えてくるはずで、伝えましょう。「あなたに平和があるように」と。

④「家から家へと渡り歩く」という箇所ですが、宣教はしっかりと現場で時間をかけないと実にならないことを教え、またそこで

《話の内容についての印象や分かり易さ、自分の体験等について参加者による

### +KABAYAN SEKSIYON+ "TUGON O KASAGUTAN"

Nalaman na natin na ang kawalan ng pananampalataya laban sa pagkilos ay bunga ng walang pagkaalam sa bagay pananampalataya. Bakit ganun? Ito ang tugon dito sa problemang umiiral tungkol sa pananampalataya. Ang tulong na inaatas ng PCP II upang malutas ang kawalan ng pananampalataya sa "pagkilos" ay "Pinanibagong Apostoladong Panlipunan" tungo sa "Panlipunang Pagbabago" Isinasagot natin sa mga tagasunod ni Marx na hindi kailanman nangako si Kristo ng isang makalangit na gantimpala sa mga "hindi kumikilos" na mga alagad, (yaong mga sumisigaw lamang ng "Panginoon, Panginoon"). Ang gantimpala ay para lamang sa mga tumutupad sa kalooban ng Ama. (Mt. 7:21).

Ang tunay na Pananampalatayang Kristiyano sa kanyang etikal at propetikong gampanin ay nagpapaunlad sa mga pangunahing pagpapahalagang-pantao na pansarili at panlipunan. Hinuhubog nito ang uri ng pamumuhay ng mga Kristiyano ayon sa mga pinahahalagahan ng Ebanghelyo at tunay na pananagutang pantao at katarungan. Sa labas ng pananampalatayang ito, maliit lamang ang nakapagwawasto sa "Kasalanan ng Mundo" na nananatiling umiiral at pangkalahatang ugat ng pagsasamantala ng tao sa tao.

Hindi lamang inilalahad ng PCP II ang mga kasalukuyang panlipunang turo ng Simbahan sa isang paraan na napapanahon sa tunay na kalagayan ng Pilipinas. Binibigyang-diin nito ang mga tunay na saksi at konkretong ambag na malaon ng inialay ng napakaraming tao, BCCs, NGOs, atbp.

Bukod sa mga ibinibigay na tulong na materyal, ang higit na malalim at higit na tatagal na ambag ay ang pagpapakita ng "mabuting halimbawa" sa pamamagitan ng pagsasabuhay ng pananampalataya. Lalong mabisa ang ganitong "mabuting halimbawa" kapag sina mahan ng maaasahang patnubay at tagubilin sa mga pangunahing Kristiyanong asal at tugon sa mga hamon ng panahon ngayon. Maaaring makatwirang angkinin ng Simbahang Katolika sa Pilipinas na sadyang mapalad siya sa dalawang bagay na ito.

Subalit kailangan ng mga bininyagan na palagi nilang alalahanin na sarili niyang lakas at karunungan ay hindi niya mahahanap ang Diyos na Buhay kung hindi muna siya naniniwala o nananampalataya, na ang lahat ng bagay dito sa mundo ay may pinagmumulan at may nagpapakita ng mundo at buhay ng tao, ang Diyos na Makapangyarihan. Ang Diyos din ang nagbibigay ng lahat ng bagay sa tao, sa kanyang pang-araw-araw na buhay. Kailangan buksan ng tao ang kanyang mga mata ng pananampalataya para makita niya ang mga gawa ng Diyos sa buhay niya.

分ち合い  
①他の人に伝える司祭のみならず、信徒も増えるように祈りたいものです。自分を伝えるのではなく、主に愛されている喜びを生活の中で伝えることを生活の中で生きています。  
②自分が生かされているみことばを運んでいく使者として歩む時、その人に必要なみことばを聖霊がお与えくださる体験があつた。  
③分ち合いの内容が少し多かつた。多くても三つほどのテーマに絞ればさらに良かった。時間内に五つを済ませようとすると一つひとつが未消化になつたように感じた。  
④質問の内容を飲みこんでいないとすぐには、自分の言葉で話せないと思つた。  
《感謝の祈り》参加者の誰かが自分のことばで感謝の祈りをささげる。

### [和善の窓から] その⑨

黙を守って然る後  
平日の言躁がしきを知る  
「六知(りくち)」(『格言聯壁』より)



入れた個所を探します。自分の「ことば」の虚しさに、力のなさに、気づけば気づくほど、「みことば」のいのちに触れるような気がします。

Fr. 松田清四朗

「黙を守ってしかる後平日のげんさわがしきを知る」

一日の終わりに、独りになって静かに思いを巡らし、その日を振り返ると、なんと無駄口が多かつたことかがわかる。恥ずかしいことである。自分の日頃の言葉の無意味さを思い知らされ、なんとも残念で、まるで乾いた砂を口いっぱい頬張つたような気分になる。「言躁がしきを知る」わけです。

そういう時は、聖書を開いて、しるしを

### ~~~和善の案内~~~

#### 夏の特別講座

場 所：教区本部棟三階

① 7月(3日、10日、17日の3土曜日連続)  
時間：10:00～ テーマ：「救済史を俯瞰する」(聖書全体の構成を学ぶ)

② 8月(10日、11日、12日：火水木) 時間：10:00～ テーマ「詩篇23」(神の熱心さを褒め称える詩)

# そもそもネット宣教って何…？

## それは「十字架は高く、敷居は低く」ってこと

司教を中心とするネット宣教委員会による講習会が始められた。それでも「ネット宣教とは？」という質問は後を絶たない。そこで委員の一人田中和幸さん(吉野教会)がまとめたネット宣教に関する手引きを紹介することで、皆さんの助けになれば嬉しい。

### ネット宣教って何…？

「信徒＝伝道師」ということです。

ゆらいあい・夜回りの会・アルファコースなどのボランティアによる宣教活動に加えて、私たち一人ひとりが「想いの分かち合い」という観点から、全世界に向けて、いつでも自由に参加できる新しい宣教手段。それがネット宣教です。

### そのために必要なものは

信徒が自由に使用・閲覧できるパソコンの設置とネット環境(回線・場所など)の準備の準備です。

それが整ったら…

各小教区独自のホームページの開設！  
小教区のホームページに二十四時間、門を開かれた教会の分身であると同時に、人々を招き入れるため

の標として掲げられた十字架です。

そうすることでどうなるの…

こんな話を耳にしたことはありませんか…？  
「教会ってところは敷居

### 奄美大島便り

#### ▼芦花部教会に新祭壇

五月二十三日(日) 聖霊に奉獻されている芦花部教会(大熊小教区)では、郡山司教を招いてミサをささげ、その中で新祭壇の祝別をした。新しい祭壇の発案者は主任司祭のアン神父。



製作には大工をして信者の青堀景雄さんが当たり、内陣の床の張り替えから祭壇の設置までを三月に終えていた。

### イエス様の手になる

#### 司教執務室便り

三年前だったか叙階式のためにマニラを訪れたとき一日を観光に費やした。大きなショッピングセンターのパウロ書院にも立ち寄った。そこで目にした壁掛けの真ん中に置かれたイエス様のご像に思わずギョツとした。肘から先が二本とも欠けていたからだ。そして、「失った手の話」と題した大意次のような文章が記されてあった。

ある朝跪いて祈ろうとした時のことです。私はキリストのご像に思わずギョツとしました。両方の腕が半分しかなかったからです。私は庭先から屋根の上までそこら中探したのですが、なくなった腕は見つかりませんでした。ご像の前に引き返して主にお尋ねしました。「夢ではないとしたらどうしてあなたは栄光の座でそんなに惨めなお姿なんですか？」すると主は優しくお答えになりました。「あなたが私の手なのです。傷つき苦しんでいる人々を元気にしてあげなさい。貧しい人々を心にかけなさい。身

寄りの無い人々に希望を与えなさい。倦み疲れている人々に愛の手を差し伸べなさい。着る物のない人々に着せてあげなさい。わが子よ、そうすればあなたは私の手を元に戻すことができるでしょう。」  
この壁掛け、あれ以来部屋の祈りのコーナーに立てかけてある。先月の三つの教会での堅信式でその都度紹介した。直接持参したこともある。そして、壁掛けを見せながら話した。  
大人である一つの印が人の気持ちに分かることだとすれば、堅信式は「イエス様の気持ちに大事にしながら生きようとする大人の信者になるとき」だということができる。イエス様の手になる。



が高く感じられる…」  
「門は開いているけど、勝手に入っていいのかわからない…」

ホームページは、パソコン・携帯電話を使える方ならば、老若男女を問わず、二十四時間誰もが気楽に訪れることができ、教会を身近なものとして感じてもらえることができます。また一方で、ミサにあずかりたくても、いろいろな事情(病気・時間的事情など)で教会へ足を運ぶことが

できない信者の方々のために、主任司祭の説教(音声)の発信、画像・動画などを発信することもでき、離れてはいても、喜び・希望・感謝の分かち合いを共にすることができるようになります。  
教会ホームページという名の十字架を立ち上げ、まずは多くの人に、気楽にカトリックというものを知ってもらいましょう。「十字架は高く、敷居は低く」※次号では具体例を紹介。

### 訃報

#### ▼岩崎信子修道女

長年、鹿児島純心学園や川内純心高等学校などで教諭・校長として働いた長崎純心聖母会の岩崎信子修道女が五月二十四日、聖フラシスコ病院(長崎市)で急性心不全のため急逝した。七十九歳だった。

#### ▼永山シヲさん

永山幸弘神父(溝辺教会)の母堂・マリア永山シヲさんが五月二十八日午前、入院先の日赤病院で亡くなった。九十三歳だった。シヲさんの葬儀は五月二十九日(土)午後、谷山教会でしめやかに執り行われた。

### 「短信」

#### ▼ザビエル教会堅信式

六月六日(日) 堅信式があり、十二人がその恵みに浴した。

#### ▼教区修道女連盟

六月六日(日) 教区本部でイエズス会から瀬本正之神父を招き総会と研修会を開いた。

### 7月会と催し

- 1日(木) 福者ペトロ岐部司祭と一八七殉教者
- 3日(土) 聖トマ使徒
- 4日(日) 松森孝郎神父霊名
- 4日(日) 山口重義神父霊名
- 5日(月) 年間の第十四主日
- 5日(月) 栃尾泰英神父叙階記念日(一九九三年)
- 9日(金) 司教評議会・教区本部
- 9日(金) 竹山昭神父叙階記念日(一九六七年)
- 11日(日) 年間の第十五主日
- 14日(水) ブイジュ祭・瀬留教会
- 14日(水) 村田源次神父命日(二〇〇七年)
- 18日(日) 年間の第十六主日
- 21日(水) ユゼビウス神父命日(一九七九年)
- 22日(木) 木村敏彦神父命日(二〇〇八年)
- 23日(金) テイエム神父叙階記念日(二〇〇六年)
- 25日(日) カトリック幼稚園研修会・霧島市・24日まで
- 25日(日) 年間第十七主日
- 28日(水) 福崎英雄神父霊名(聖ヤコブ)
- 31日(土) 松田清四朗神父叙階記念日(一九七四年)
- 31日(土) ハナス神父叙階記念日(一九五五年)

### この一冊

#### 「世界遺産の道」



信者なら誰もが一度は憧れる「サンティアゴ・デ・コンポステーラ」の徒歩巡礼。この夢を憧れだけに終わらせず実現させた人がいる。吉野教会の小河原恵美子さんだ。昨年五月、一人出発の地フランスに立ち、五十二日間かけて八百キロに及ぶ道のりを踏破した。そしてこのほど、その旅の様子を本にまとめた。綴られている旅の様子は彼女の感動と人との出会いの素晴らしさ。ページを捲るのを止めることができない期待感がある。ぜひ読んで頂きたい。そうすればきっと巡礼への準備に取り掛かってしまふこと間違いなし。定価一五〇〇円(税別)※購入はザビエル書院で。連絡は左記へ。  
emiko.kogawara@live.jp

#### 古居智子著

#### 「密航」

最後の伴天連シドゥテイー  
— 新人物往来社  
定価 一八九〇円(税込)

### お知らせ

- 宣教奉仕者の集い…7月11日(日) 13時30分 教区本部2F会議室 (日)泉浩二神父による講話 (月)教区フェスタについて
- 坂本進神父のホリスティック黙想会…7月12日(月) 10時~12時 ザビエル教会1Fホール 受講料500円

響け鹿兒島の歌声

聖アルフオンソ合唱団欧州へ

事務局長 太田勇二郎

先日、司教様から「谷山の合唱団がドイツへ演奏旅行に出かけるという噂があります。本当ですか？」とお尋ねがありました。「噂ではございません。本当です」とお答えしました。

私たちは九月十六日日本を離れ、二十七日に鹿兒島に帰ってくるまでの十二日間、ドイツで三カ所、イタリアで一カ所の演奏会を行います。そのうちに二カ所では、現地の聖歌隊と一緒に舞台上立ち、モーツアルト作曲「戴冠ミサ」曲を合唱してミサをささげます。いずれも壮麗なバロック教会が舞台で、今から身の引き締まる思いで練習に励んでおります。

ある町に住んでいた時のこと。隣に二人のお子さんがいる三十代後半のご夫婦がおられた。時々「ガシャン、ガシャン」と大きな音が聞こえてくる。いわゆる夫婦喧嘩である。

ある日隣の奥さんが「お宅は日曜日に何処においでになるのですか」と。うちはカトリックの信者なので教会に行くのです」と妻。「わたしはちみみといな者も行ってよいのでしょ

の夫婦は「一体何処に行くのだろう。日曜日に限って」と思われたのだろう。わが家のミサは土曜日から始まる。子どもが多かったせいもあるが、着る物、持っていく物、それぞれ自分で準備し整えることが妻

みことばシリーズ⑬

そのままの姿の中に

終身助祭 桃菌淳一郎

マリアさま、あなたを讃えます！



5月29日(土)鹿兒島純心女子学園で盛大に祝われた聖母行列

これまでシュューベルト作曲ドイツミサ、ケンプター作曲パストラールミサ、ハイドン作曲オルガン・ソロ・ミサ、同ニコライミサ、モーツアルト作曲ミサ・ブレヴィス、同戴冠ミサを歌い込んできており、それが私たち

表J・ムイベルグ神父)と言い、ご存じのようにレデンブートル修道会の創立者・聖アルフオンソ・マリア・デ・リゴリーから頂きました。平成十七年十月、谷山の信者を中心に結成されたが、現在は他の教会の信者さんや一般市民、学生の参加もあって、団員は四十人を超えました。そして私たちの教会では復活祭とクリスマスには必ず

の持ち歌になつています。作製したCDも十五種類となり、今回は遠征費用の一部を捻出するために、ご支援価格一枚二千円で販売させて頂きました。日本の南から届ける歌声で、彼の地に鹿兒島の存在を知らしめ、併せて交流・親善を深めてまいります。どうぞ聖アルフオンソ合唱団をご支援下さいますように、よろしくお願い申し上げます。

信仰と漢字(十五)

純心学園 司祭 岡 俊郎

毎日ミサをささげる時に、よく思い出すのは、腰骨・息を教えて下さったM先生の事です。

真に「一道」に徹しようとしたら、何よりもまず自らの主体性の確立を必要としますが、それには単なる

観念や理念にとどまらないうで「腰骨を立てる」という即身的具体性にまで凝結せしめねばならぬ、と述べています。

私はこの生き方に信仰生活の土台を教えて頂きました。神さまのなさることにまったく無駄なものはない。その夫夫婦喧嘩がなくなったのは当然のことである。

宝であった。教会への道すがら、歌を歌ったり、話をしたり、笑ったり、楽しい道であった。もしわが家が、クリスマスやご復活だけミサに行き、日曜日のミサに行かなかったとしたら、隣のご夫婦は何の関心を持つこともなかったであろう。

「言は、自分を受け入れた人、その名を信じた人々に神の子となる資格を与えた。」(ヨハネ一の12)また、聖パウロは「あなたには、代価を払って買取られたのです。」(二コリント六の19)と教える。この「ことば」に元気づけられてきた。「そのままで良いのだよ」という神さまのまなざしのなか

文芸

- 純心学園 山頭 信子
ミサ挙げて草笛うたう司祭かな
出水市 沖 弘子
青葉山を借景として今日のミサ
純心学園 川上 和
さつき晴れルルドの森のアヴェマリア
霧島市 政 ノブ子
ミサの後香り楽しむ新茶かな
鹿兒島市 徳永ノブ子
轉りも祈りに応え朝のミサ
愛光園 春山マリ子
鮮やかなみどりにほんのり恋をした

短歌

- 愛光園 春山マリ子
山道を歩きながらに父恩ぶ心の友よ大きな愛よ
うつつと不吉な予感へひきもどらう
つむきあまた咲くだちゅうら
天国でまた会うねと呼びかけて妻の棺の扉を開かず
妻有りし時に言はざりし「ただ今」を妻居ぬ家に入る時に言う
純心学園 川上 和
コリントの古代遺跡は物語る石路の宣教パウロの涙を

ある日の福音で「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。」(ヨハネ六・54)を頂きました。ミサにあずかる具体的な生き方を述べておられると私の心に強く響いてきました。

肉は字形「切り離れた獣(けもの)の肉とその筋のある形」で、字音「ニク」。元の音はジユク。この音の表す意味は『獣肉の柔軟な意』です。字義は牛羊豚などの獣肉の意。中華人民共和国では古くから獣肉を常食としていました。

「わたしの肉」と主がおっしゃるとき、永遠の命である神様から授けられた命の働きが聖母マリアの胎で受肉されて生まれて育って頂いたイエス(主が共におられる体の生き方)・キリスト(救い主としての命の生き方)として、人間としての体の生活・働きを指しているのではありません。更に肉の筋の部分には血管・血液の流れです。命の働きが肉体の隅々にまで染み通るよう